

日本語要約

地球温暖化による暑熱の健康影響が世界的に懸念されている。これまで主に欧米を中心とする先進国都市部のデータを用いた研究で、気温変化による死亡率の上昇が明らかにされているが、ヒートアイランド現象の影響が少ない農村部（特に熱帯地域）での研究はほとんどない。本論文はバングラデシュ農村部における過去 9 年間の人口動態データを用いて時系列解析をおこない、気温と死亡率の関連を検討した。その結果、気温の低下により全死亡、循環器疾患死亡、呼吸器疾患死亡、周産期死亡が著明に増加した。過去 2 週間の平均気温が 1 度低下すると全死亡率が 3.2% (95%信頼区間 : 0.9-5.5) 増加すると推定された。一方、気温の上昇による死亡率の増加は認めなかった。熱帯地域では年間平均気温が高く、生体が適応した結果やヒートアイランド現象の欠如が機序として考えられた。本研究の結果は、WHO がおこなう地球温暖化に伴う暑熱による将来の健康負荷を推定するための根拠として使用されることが期待される。